# IIBA 日本支部メールマガジン 23 号（藍版）

日ごろは IIBA 日本支部の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
メールマガジン 23 号（藍版）をお送りいたします。
今回も各執筆者の力作ＢＡコラムが勢ぞろいしています。どうぞお楽しみください。

MENU

1. IIBA 日本支部代表理事寺嶋一郎 コラム
2. 日本支部理事コラム（マーケティング担当理事 藤重　茂）
3. 読者コラム　（IIBA 日本支部会員 赤松 加朱代様）
4. 本部トピックス（マーケティング担当理事　藤重　茂）
5. 日本支部からのお知らせ
   1)ユーザー企業向け BA 基礎研修参加募集のお知らせ
   2)ITmedia への IIBA 日本支部関係者による BA BA コラム連載のご案内
   「BOA 入門」
   3)ITmedia 様エグゼクティブ e マガジン発行のお知らせ
   4)POA 概論日本語版公開のお知らせ
   5)ビジネスアーキテクチャ勉強会シーズン２開催のお知らせ

---

## 1. IIBA 日本支部代表理事寺嶋一郎 コラム

---

『永平寺で道元禅師を想う』

先日、福井で永平寺に行った際、永平寺を建て曹洞宗を開いた道元に想いを馳せた。

道元は貴族の出だったのだが、政治に携わるのではなく自ら出家して、比叡山で仏教を学ぶのだが、「人間にはもともと仏の性質が備わっているとされているのに、どうして人は仏になることを願って厳しい修行をしなくてはならないのか？」という疑問を抱くのである。

道元は「修行や勉学」とは何かということを探し求める中で、宋で如浄禅師から「座禅こそが悟りそのものである。であるから、ただ座禅すればよい。」と教えられる。そして、雑念をいっさい捨て去り、ただひたすら座禅を組み修行する「只管打坐」以外に仏法の体得はない、人間にはもともと仏の性質が備わっているからこそ、修行ができるのであり、座禅は修行をしている状態であり、それそのものが悟りだと考えるに至る。

自我意識を捨て、あらゆるこだわりをなくして、真理の世界に溶け込んでいくことが「身心脱落」であり、その境地になれば病や苦悩、死すらもありのままに受け容れることができ、何ものにも惑わされない悠々とした生き方が見えてくるのだという。

さらに、それは修行だけでなく、日常の行いすべてに当てはめられるとしたのだ。悩み事を抱えて仕事をしても、あれこれ考えてしまって手につかないことがあるが、そうした状況を変えることができるのは、その時やっている「行い」によってだけである。ただただ仕事に集中して頑張ることで解決できることもあるわけで、「行い」に本当に集中できていれば、余計なことに思い悩むことはないというのが、「修証一如」ということでもある。

道元は大著「正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）」を著し、その哲学的な思想は今欧米で流行しているマインドフルネスなどにも影響を与えている。

でも、永平寺で禅問答をしているビデオが流れていて見たのだが、てんで意味がわからず、ちょっと悟りとはほど遠いのではと思った。

道元の思想は素晴らしいけれども、禅にはやはり愛が足りないのではないかと思う。自分が悟ろうとして、自分を高くしたいということで手いっぱいで、人を活かすという気持ちがないと思うのだ。永平寺のような山に籠って坐禅して一人悟ったとしても、世の中に対して大きな影響は与えない。それよりも人里に降りて、人々の中で愛行をしながら多くの人を利他の行為に誘うことの方がより良い社会を作れるはずだ、などと思いながら永平寺を後にした。

（IIBA 日本支部 代表理事 寺嶋一郎）

---

2. 日本支部理事コラム（マーケティング担当理事　藤重　茂）

---

『ビジネスアナリシスの個人的な活用について考えてみた』

ビジネスアナリシスの精神と技法はビジネスの問題だけでなく、生活のあらゆる場所で使えるということをご存知でしょうか？ご承知のようにビジネスアナリシスは、組織の問題や事業目的を明確にし、問題を解決したり、新しいビジネスを立ち上げたりする知識体系です。
ではこれを個人の問題解決に適用したらどうなるでしょうか？自己が置かれた状況を分析し、抱えている問題点を明確にし、それを解決するための行動を考えることになります。そのときどこに注目し、どのような行動を取ると問題を解消できるかを考えることになります。
例えば、転職を考える人がどのように考え行動すれば、よりよい結果を得ることができるかを考えてみましょう。

手順 1） まず自己分析を行います。使うツールはお馴染みの SWOT 分析ですね。自分の強み、弱み、機会、脅威を考え、自分がどのような状況に置かれているかを客観視します。

手順 2）次に解決すべき課題、挑戦すべき目標、存在するリスクとその回避方法を検討します。その上で、ビジネスモデルキャンバスを高速対応向けに修正したリーンキャンバスを使用し、行うべき行動を考えます。リーンキャンバスには、「課題」「独自の価値提案」「解決策」「価値提案と自分の関係」など 9 つの要素を埋めていきます。例えば、「ターゲットを決める」「必要な資格を取得する」「複数の転職サイトに登録する」「知人に連絡して転職先を紹介してもらう」「魅力的な経歴書を作成する」などでしょうか。

手順 3） リーンキャンバスで明確にした行動内容を実行するための計画を立てます。計画にはマイルストーンを設け、進捗を測ることができるようにします。

こう考えてみると、論理的に全く当たり前の手順で、特にビジネスアナリシスがどうのこうのという話ではなさそうに思えます。しかし基本的な考え方や必要な検討要素など、先人が経験や知識を基に体系化された手順を知ることはとても心強く為になるものです。

皆さんも一度、個人的な視点で BABOK を見直してみてはいかがでしょうか。

（IIBA 日本支部 理事 藤重　茂）

---

3. 読者コラム　（IIBA 日本支部会員 赤松 加朱代様）

---

『強くなるために』

7/26 にパリオリンピックが開幕しました。このメルマガが発行される頃には連日熱戦が繰り広げられているのではないでしょうか。

本日は 48 年ぶりの自力出場を叶えたバスケットボール男子について、日本バスケットボール協会の三屋裕子会長が昨年の W 杯後のテレビ番組に出演した際のお話が印象的だったのでご紹介します。

「男子バスケを強化するためには、三屋会長自身の経験から 2 回連続オリンピック出場が必要と考えた。2 回連続で出場すると、前回大会を経験した半数の人間が次回大会に残り組織としても強くなれるからである。
そこで、東京オリンピックとパリオリンピックをターゲットにした。東京オリンピックの開催国枠での出場のために、FIBA から条件として与えられた 2019 年 W 杯に自力で出場する。パリオリンピック出場のために、2023 年 W 杯を自国開催しアドバンテージを得てアジア 1 位を獲得する。そのために W 杯誘致を積極的に行った。」

限られた人的リソースや国際大会を強化のためにどう活かすか、何大会も前から綿密に戦略を立て、協会としての手段の選択、判断を適切に行い遂行することがとても大切であると感じたお話でした。
この姿勢や考え方は、BA の仕事や価値にもつながると感じました。
こういった組織の戦略を聞くことが新鮮でしたので、背景も踏まえ観戦するとまた違った見方ができるなと感じました。しっかり応援したいと思います。

（IIBA 日本支部会員　赤松 加朱代 様）

---

4. 本部トピックス（マーケティング担当理事　藤重　茂）

---

4-Professional Business Analyst vs. Business Analysis Professional

今回は面白い考察を見つけたので、皆さんにご紹介します。
タイトルだけでは何のことかわかりませんが、職業としての呼び方と役割としての呼び方の違いのようです。この２つは探偵とジャーナリストの関係のようだというお話です。

https://www.iiba.org/business-analysis-blogs/professional-business-analyst-vs-business-analysis-professional/

（マーケティング担当理事　藤重　茂）

---

5. 日本支部からのお知らせ

---

5-1.ユーザー企業向け BA 基礎研修参加募集のお知らせ

IIBA 日本支部はビジネスアナリシスをユーザー企業の情報システム部門に普及するためにパートナーの認定教育プロバイダと協働で下記研修プログラムを提供いたします。今年も DX の基礎となるビジネスプロセスとビジネスルールの学習を強化した改善版です。
みなさまのご参加をお待ちしています。以下のお申込みサイトからご応募ください。

https://japan.iiba.org/node/255

5-2.「POA 入門」日本語版リリースのお知らせ

IIBA 日本支部では「Introduction to Product Ownership Analysis（POA 概論）」の日本語版をリリースしました。IIBA 会員の方は、以下のサイトから無料で PDF ファイルを取得できます。
プロダクトオーナーシップに関しては関心の高い分野です。この分野で BA はどのように関連するのかの概要について学ぶことができます。是非ご利用ください。

https://www.iiba.org/business-analysis-certifications/multilanguage-resources/

そして、翻訳チームの森山武様、庄司敏浩様、清水千博様、濱井和夫様、上田靖之様、諏方正孝様の多大なるご尽力に心から感謝申し上げます。またの機会がありましたら、何とぞよろしくお願い致します。

5-3.ITmedia 様への IIBA 日本支部関係者による BA コラム連載のご案内

皆さん！「ITmedia エグゼクティブ」という上場企業課長級以上の方向けの情報ポータルサイトをご存知ですか？これは IT を核に、企業のさまざまな変革を議論する会員制コミュニティーです。現在ここで行っている、IIBA 日本支部の理事と理事経験者による BA に関するコラムのリレー連載をご案内いたします。

現在「第 4 回 データードリブン経営へ向けて：BDA 入門」を最新版としてリリースしています。過去を含めて一覧は以下からご参照ください。※BDA（ビジネスデータアナリティクス）

https://japan.iiba.org/beginners

なお、今後の掲載予定は次のようになっています。※予定は変更されることがあります。
・プロダクトオーナーシップ とは：POA 入門
・ビジネスアーキテクチャとは何か
・要件定義をツールで行う：ビジネスアナリシスのツールの紹介
・DX 人材とはビジネスアナリスト：BA 育成　デジタルスキル標準
・ビジネスアナリシスの実践例：今回の BA 賞受賞
・日本で生まれた BA 方法論　匠メソッド & Gutsy-4
・ビジネスアナリスト対談
・BA に必要とされるソフトスキルについて

5-3.ITmedia 様エグゼクティブ e マガジン発行のお知らせ

続いて ITmedia 様関連でお知らせがあります。

ITmedia エグゼクティブは会員制のポータルサイトです。入会は無料ですが、入会には「上場企業および上場相当企業の課長職以上」という条件があります。
こちらでは会員向けに定期的に e-マガジンを発行しており、今夏は「ITmedia エグゼクティブ DX e マガジン 2024 夏」が発行されています。今号には IIBA 日本支部代表理事の寺嶋が寄稿した「なぜ DX においてビジネスアナリシスが必要なのか？」が掲載されていますので、ご関心のある方は是非入会の上、お目を通していただければ幸いです。

https://mag.executive.itmedia.co.jp/executive/articles/2407/01/news022.html

5-4. ビジネスアーキテクチャ勉強会シーズン２開催のお知らせ

昨年 7 月より開始した「ビジネスアーキテクチャ勉強会」ですが、この一年間「Business Architecture Quick Guide」という書籍をテキストに、その基本的な考え方と概要について学びました。一通り通読できたので、この 7 月からシーズン２としてビジネスアーキテクチャ（Bizbok®）の『肝』となる考え方と、その実行のためのテクニックについて深堀しようと考えています。これを期に参加ご希望の方は是非ご連絡ください。（連絡先：marketing@japan.iiba.org　藤重）

また座学だけではなく以下の３つの分野で、有志によるグループ活動を勉強会と並行して行うことにしています。

①ビジネスアーキテクチャを解りやすく説明するための動画作成（前４話）
②日本での普及活動を促進するため、米国 Business Architecture Guide と協業検討
③Bizbok に記載されている、業種別リファレンスモデルの日本版の作成

現在これらの活動にご参加されるボランティアを募集しています。皆さんの積極的なご応募をお待ちしています。（連絡先：marketing@japan.iiba.org　藤重）

**********

<<編集後記>>

●　IIBA 日本支部メルマガ 23 号（藍版）をお届けいたします。
猛暑と豪雨に見舞われた日本列島ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。西日本から関東では記録的な暑さにより熱中症患者が急増し、東北では大雨による被害が深刻化しています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心から願っております。

一方、世界ではパリ五輪が開幕しました。開会式は様々な意見があるようですが、選手たちの活躍を期待し、熱い声援を送りたいと思います。

さてここ数ヶ月、ビジネスアナリストへの期待が高まっていることを実感しています。IIBA 日本支部の会員数が増加していることもその証です。経済産業省が提唱する「DX 推進スキル標準」では、ビジネスアーキテクトの役割が数多く挙げられていますが、その多くが BABOK®で定義されているビジネスアナリストの役割と重なる点に注目が集まっています。つまり、DX を推進するためには、ビジネスアナリストが中心的な役割を担うことが期待されており、ビジネスアナリシスの重要性がますます高まっていると言えるでしょう。

この機会に、ビジネスアナリシスのさらなる普及と理解を深めていきたいと考えています。

（IIBA 日本支部 プロモーション担当理事 永谷 裕子）
（IIBA 日本支部 マーケティング担当理事 藤重 茂）

**********

**◆ご意見・ご感想等ございましたらこちらからご連絡ください**

https://japan.iiba.org/contact-us